

第 427 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2024 年 9 月 13 日(金) 17 時 00 分～18 時 00 分

場 所: 記念棟大会議室(常念)

演 者: 湯本 浩通 氏

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 歯周歯内治療学分野 教授

歯肉上皮の生体防御機能と歯周病バイオマーカーの探索

私は、徳島大学歯学部を卒業後、直ちに徳島大学大学院歯学研究科博士課程に進学し、歯周病原細菌付着因子の分子生物学解析に関する研究で学位を取得しました。大学院卒業後は、歯周病原細菌の感染機序ならびに宿主免疫応答機構の解明とその制御・抑制方法の開発に関する研究を行い、留学を機に口腔感染症と全身疾患との関連性に関する研究にも従事しています。

歯周病は、歯周ポケットへの歯周病原細菌の感染に起因する細菌バイオフィーム感染症です。歯肉上皮は、他の上皮組織と同様に、温度、触覚、痛みなどの感覚機能と細菌などの外来からの刺激・侵襲に対する最前線の砦としての物理的バリア機能に加えて、抗菌ペプチドなどを産生する自然免疫機構を有しています。特に、歯肉溝滲出液や樹状細胞・好中球などの防御細胞を通過させて、感染防御に積極的に寄与しており、さらに結合組織、歯根膜や歯槽骨などの上皮下歯周組織を保護している観点では、歯周病の予防や治療に関して戦略的に極めて重要な部位と考えられます。

本セミナーでは、細菌感染症である歯周病の発症に深く関与する歯肉上皮の構造と役割・機能に着目し、歯周病の発症における上皮細胞間接着メカニズムに関与する分子群の発現パターンの変化が、上皮透過性やバリア機能に及ぼす影響について整理し、さらに、歯肉上皮細胞や上皮下歯周組織細胞から分泌される多数の物質を含む歯肉溝滲出液について、歯周病の発症や進行に影響を及ぼし、かつ臨床的診断に応用できるバイオマーカーの探索研究の成果とその臨床応用の可能性について解説したいと思います。

また、口腔細菌バイオフィーム感染症である歯周病の発症や重症化の予防法として、歯肉上皮の役割や機能に焦点を当て、歯周病原細菌の組織への付着や定着とそれに引き続くバイオフィーム形成の抑制や感染の入り口・門となる歯肉上皮の機能維持を図る口腔ケア製品の開発に関する基礎および臨床研究の成果についても紹介したいと思います。

Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

プロフィール

- 1992 年 3 月 徳島大学歯学部卒業
1996 年 3 月 徳島大学大学院歯学研究科博士課程修了
1996 年 4 月 徳島大学歯学部附属病院 第一保存科 助手
1997 年 4 月 徳島大学歯学部 歯科保存学第一講座 助手
2002 年 4 月 ボストン大学医学部 感染症部門 博士研究員 (～2005 年 4 月)
2005 年 4 月 徳島大学大学院 歯科保存学分野 助手
2007 年 4 月 徳島大学大学院 歯科保存学分野 助教
2012 年 4 月 徳島大学病院 歯科・第一保存科 講師
2017 年 10 月 徳島大学大学院医歯薬学研究部 歯周歯内治療学分野 教授
(現在に至る)
2020 年 徳島大学病院病院長補佐 (医科歯科連携担当)
2021 年～ 徳島大学病院副病院長・歯科担当 (現在に至る)

健康増進口腔科学講座 吉成 伸夫 教授